



# 2020春闘総決起集会

JRグループ労組連絡会（JR連合）は2月12日、大阪市内で「2020春闘総決起集会」を開催し、JR連合に結集する仲間の代表者ら約200名が出席し、JR各単組とグループ93単組が一丸となって2020春闘に臨む決意を固め合った。

主催者を代表してあいさつした八木大星代表幹事（JR西日本連合・NESCO労組）は、労働条件の向上・職場環境の改善のみならず、安全の確立や組織の強化・拡大につながり得る運動の展開を訴えるとともに、



重大な課題となっている離職ドミノに歯止めをかけ、人材の確保・定着につなげていくためにも、JR連合に集うメリットを最大限活用し「組合員のための運動を展開しよう！」と呼びかけた。

来賓として出席したJR連合の荻山市郎会長は、過日策定したJR連合ビジョンを紹介したほか、「日本型雇用システムが転換期を迎えている」などとした経労委報告に対して猛反発し、「時間をかけて積み上げた知識や経験を活かして、安全と安心を提供しているJR産業は長期雇用が大前提であり、安心して働き続けるためには賃上げは欠かせない」との考えを示した。

春闘方針を提起した北村公次事務局長（JR連合・労働政策部長）は、JR労働界に立ち込める離職や組合不要論といった暗雲をJR連合が打ち破るため、JR産業のすべての仲間への波及を目指し、「安心して働き続けるための賃上げの継続」「人財の確保」「グループ会社の地位向上」など、2020春闘において解決を目指す課題を示すとともに、目標を達成するためには要求することが大事であり、全加盟組合が必ず要求を行うよう要請した。

これらを受けて、JR九州連合を代表して登壇した平金久未子副会長（JR九州住宅労組・執行委員長）は、2020春闘において必ずベアを獲得する決意を述べ、参加した加盟組合に対して「相互に良い結果を波及しよう」と、JRグループ労組連絡会全体の連帯した運動展開を呼びかけた。



決意表明する平金副会長

最後に、「JR産業に集う全ての仲間と家族の幸せを実現するため、全単組が一丸となって積極果敢に闘う」とした集会アピールを採択し、八木大星代表幹事の団結ガンバローで締めくくった。